

## 入選

### みんなのかぶと虫

青森県 向小学校 2年 三浦 琉聖

「うわあ、すごい、ありがとう。」

なつ休みがはじまってすぐに、なんとかぶと虫を5ひきいっぺんにもらい、ぼくはとびあがりしました。

ぼくのいえは、おふろやさんです。まい日いろんな人がくるので、とつてもにぎやかです。おじいさんおばあさんから、よちよちあるきの赤ちゃんまでおふろに入りになります。かぶと虫をくれたのは、いつもくるおばちゃんです。自分でつかまえたかぶと虫ではないけれど、もらったときは、うれしくてバツタみたいにとびはねました。

さっそく自分のものになったかぶと虫たちに、えさのゼリーをとりかえたり、かごの中の土をとりかえたりしてだいにそだてました。ぼくのじまのかぶと虫だから、おみせのげんかんにおきました。おきやくさんたちに、

「わあ、かぶと虫だ。」

「たくさんいるぞ、かっこいい。」

といわれて、ぼくがほめられているみたいでさいこうにいい気分。

そんなときは、かぶと虫たちも、

「すもうとろうぜ、どすこい。」

といっているようで、つやつやして見えます。とくに、小さい男の子たちがあつまってきて、

「わあ、かぶと虫だ、いいなあ。」

といつまでも見えています。なんだか、とられないかしんばいなので、おくばしょをかえました。それでもまたしんばいになって、たかいところにおいてみます。ぼくは、自分のたからものをかくすことばっかりかんがえるようになっちゃって、なんだかおちつきません。かぶと虫も、こそこそゼリーの下にかくれているような気がします。ぼくが、かぶと虫をまたちがうところにかくそうとしていると、おかあさんに、

「たかいところにおくと、小さい子に見えないよ。かぶと虫を見るのをたのしみにしているみたいだよ。」

といわれました。ぼくが、はっとしてかごの中を見ると、かぶと虫たちもなにかいいたそうに、チョンとついたくろい目でこっちを見ていました。

「そっか、おきやくさんも、かぶと虫たちもたのしみにしているんだ。」

と思いました。

その日から、かぶと虫のかごを、みんなの見えるところにおいています。ときどき、小さな男の子たちにも、さわらせてあげます。みんなが見て、みんながぼくのかぶと虫をかわいがってくれれば、ぼくもうれしい気もちになることに気づきました。かぶと虫たちもかわいいしょっかくをうごかして、うれしそうにゼリーをたべています。

それからは、かぶと虫が、ぼくだけのものじゃなくて、みんなのかぶと虫になりました。